

うえだ News 環境市民会議

平成 17 年 1 月 15 日
新春特別号

発行：
うえだ環境市民会議
〒386-8601
上田市大手一丁目 11-16
上田市生活環境課内
電話：0268-23-5120
FAX：0268-25-4100
seikatukankyo@city.ueda.nagano.jp

うえだ環境市民会議の活動も今年で3年目を迎え、7つのワーキングチームの活動も活発になってまいりました。今回は「魅力あるうえだ環境市民会議、魅力あるワーキングチームにするために」をテーマとした内容や、現在までの活動状況などについて各ワーキングチームの代表者にお話いただきました。

自然豊かな山と川を育むまち

豊かな自然・心豊かな暮らしを求めて

／事務局員・小泉寿彦

私の参加している「自然豊かな山と川を育むまち」WTでは、地域の市民グループと連携しビオトープをつくり維持管理しています。野生生物の棲む生息空間の環境を良くすれば自然環境の復元力は素晴らしい物があります。

例えば、田んぼビオトープや川ビオトープをつくると、魚が増えたり空飛ぶ宝石といわれる小鳥のカワセミも姿をあらわす事が多くなった例もあります。

ビオトープづくりなど自然環境を良くし、暮らしやすい地域づくりの活動にあなたも加わり輪を広げませんか。

うえだの景観

「うえだ環境市民会議」の魅力とは？

／議長・リーダー竹内秀夫

昨年11月26日に「上田地域環境推進協議会」が設立されました。この「協議会」は環境保全等を目指して活動している各種団体や事業者などが情報を共有して、より効率的に活動し、お互いの目標を達成するとともに、地球温暖化防止を推進することを目的としています。

「協議会」と「うえだ環境市民会議」の違いは、前者が組織と組織のネットワークであるのに対し、後者は市民一人一人をつなぐ個人と個人のネットワークとすることができます。換言すると環境に良いことをしたいと考えた一人の市民が気軽に参加し、活動できる組織が「うえだ環境市民会議」ということになります。具体的には既存の（ワーキングチームの）プログラムに加わり、一緒に活動する方法もありますし、自分で新たなプロジェクトを立ち上げ、一緒に活動する仲間を増やす方法もあります。しかし、ここで問題になるのはワーキングチームの存在で、新たなプロジェクトを立ち上げようとしたとき、ワーキングチームの合意がなければできません。これは「うえだ環境市民会議」が個人と個人のネットワークと言っておきながら、ワーキングチームという組織と組織のネットワークになっている弊害のように思います。ですから、私はワーキングチームからプロジェクトチームへ移行した方がより多くの個人が参加し易くなるのではないかと考えています。

今後も、「うえだ環境市民会議」の目指すべき方向をみなさんとともに考え、それが魅力ある組織づくりにつながることを願っています。

地球SOS

うえだ環境市民会議のパワー

／副議長・リーダー川上美保子

「温暖化」や「砂漠化」は地球のグローバル・チェンジと言われ、人間活動の結果であるとされています。でも、私たちは普通に暮らしていると快適さに埋まって、そのことを忘れていました。私たちのチームは、この危機を市民に知らせようと考えました。そして、上田の地球温暖化を示す植物は白樫であることを学びました。「その木は、どこにあるのだろうか？」とチームミーティングで話題になると、緑が丘に住んでいるメンバーが「なんの木かわかんないけど、今まで見たこともない木がいっぱいあるよー」と…それは太郎山山麓に十数年前から生えていて、冬でも葉があるとのこと。それは白樫かも知れない！と全員で観察に行きました。そう、白樫でした。かつて上田の寒さでは、冬を越せず自生出来ないことになっていたのが、鳥などの動物がその実を運んで冬を越して自生していたのです。上田の冬の気温が上がっていたのです。3月に市民観察会を開催し、マスコミを通じて県民にも知らせることが出来ました。県の研究機関も「シラカシの分布定着地」として本格調査を始めました。このことは市民会議で正しく学んだことと人とのつながりの中から生れた「力」だと思います。

げん ゴミゼロ
ごみ減 (530)

～資源を有効に利用するまち～

今後の活動について／リーダー山口春香

- ・上田市内のごみ減量化に向けて活動している7団体とのネットワークを大切に今年も協働してごみ減量に取り組む。
- ・食品を包装するトレイの使用を減らそうと申し合わせ書に調印した102品目について市民のみなさんにPRを行う。
- ・レジ袋削減について、市内の7団体の協働による取組をはじめ県下のネットワークとの連携を図りながら進めて行きたい。
- ・ごみ減量についての学習と共にディスカッションを重ね、できることから実践する。
- ・食品を包装するトレイの使用を減らそうと申し合わせ書に調印した102品目について市民のみなさんにPRを行う。
- ・レジ袋削減について、市内の7団体の協働による取組をはじめ県下のネットワークとの連携を図りながら進めて行きたい。
- ・ごみ減量についての学習と共にディスカッションを重ね、できることから実践する。

環境 ISO ネットワーク

「魅力あるうえだ環境市民会議/ワーキングチーム」 にするために /リーダー柴崎茂利

自然環境保護、地域環境保全の観点から、上田市では、環境政策の基本的な方向と取組みの枠組みを明らかにする「上田市環境基本計画」を策定しています。そして、市民・事業者・行政がパートナーシップを築きながらこの計画に描かれた望ましい環境像の実現を目指して、いろいろな環境問題に取り組んでいかなければなりません。

「上田市環境基本計画」に記載されている以下1～4項を再確認します。

1. 上田市のビジョン(望ましい環境像)を改めて明確にする
→28頁参照
2. 上田市の方針(基本目標)と、市民・事業者・行政の行動指針を改めて明示する
→29頁、88～115頁参照
3. このビジョン・方針等から、「うえだ環境市民会議 /ワーキングチーム」に期待するものは何かを明確にする
→140頁、141頁参照
4. この期待と共に、「うえだ環境市民会議 /ワーキングチーム」に科したい役割・課題は何かを明確にする
→140頁、141頁参照

以上のことを改めて記述した上で、「魅力あるうえだ環境市民会議 /ワーキングチーム」にするためには、

5. 「上田市環境基本計画」の進行状況や市民・事業者・行政の環境保全行動への取組状況をチェックし、さらに見直しを担う組織として機能させる。
6. 市民・事業者の視点から環境行政に参加・協力しやすい仕組みづくりを提案し、推進させる。
7. 個別の環境問題や地区別の環境問題に応じた専門部会や地区部会を設置し、市民・事業者が自ら行動計画を作り、取り組む体制を推進する。
8. 「環境レポート(上田市環境基本計画年次報告書)」を点検し、計画の実施効果をチェックする組織として機能させる。

さらに、上田市環境ISOネットワークに限定すれば、

1. 「上田市環境基本計画」98～106頁に記載されている「事業者の行動指針」の中で、EMSの観点から取り組み易い環境問題を、各種団体や事業者へ宣伝・啓蒙し、実行させる組織として機能させる。
2. 上田市が「EMS自己適合宣言」をする計画にあるが、適合の担保のために、市民・事業者による外部監査(第2者監査:市民・事業者は顧客であるので)の一端を担う。
3. 環境ISOヘルプデスクの発足を宣言したが、このデスクを有効に機能させて、EMSを含めた環境に配慮した事業活動を進める事業所を順次増やし、環境保全活動に対する事業所としての役割を果たす。

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのワーキングチームにも参加できます。参加ご希望の方は、上田市生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

事務局 上田市生活環境課内：電話 0268-23-5120

※「誰もが安心して健康に暮らせるまち～きれいな水の循環を考える～」WTの記事についてはリーダーの都合により今回掲載しておりませんので、ご了承ください。

市内のスーパーで食品トレイの使用が制限されます

昨年12月2日に、市内大手スーパーとの間で「食品トレイ使用品目削減等に関する申し合わせ書」への調印式が、母袋上田市長立会いのもと行われました。

ごみ減と市内7市民団体と協働してごみの減量について検討し、スーパーとの協議の結果、野菜類・果物類・惣菜類など102品目にも及ぶ商品へのトレイ使用が制限される事になりました(品目等申し合わせ書についての詳細はホームページをご覧ください。<http://www.city.ueda.nagano.jp/seikatukankyo/ueda-ksk.htm>)。

この申し合わせ書では、102品目の他にも商品によってはスーパーの判断でトレイを使用しないこととすることができるとし、販売する側でごみの削減に大きく協力していただく事になっています。わたしたちも家庭においてごみの分別をすすめ、トレイはスーパーに返すなど、ごみの適正な処分に努めなければなりません。

なお、協力いただくスーパーは次のとおりです。
イオン(株)ジャスコ上田店、(株)イトーヨーカ堂上田店、Aコープ、(株)エス・エス・ブイ(西友)、サニーライフ、(株)西友リヴィン上田店、全日食チェーン長野協同組合(スーパーOZAKI)、(株)ツルヤ、(株)マツヤ、(株)やおふく(五十音順)



食品トレイ使用品目削減等に関する申し合わせ書 調印式

環境学習 いのち ～命の連環を学ぶ～

うえだ環境市民会議をさらに大きく羽ばたかせよう！ /リーダー安井啓子

21世紀は「環境の世紀」ともいわれ、私たち一人ひとりが環境に配慮した暮らし方に舵を切り替え、「持続可能な社会づくり」に積極的に参画する事が求められている。この時代の要請の中、うえだ環境市民会議がスタートしてはや1年半近くが経った。これまでも環境関連の団体・グループはいくつかあったが、環境問題を総合的にとらえネットワークする場は無かったのではないだろうか？

うえだ環境市民会議は、環境問題に興味・関心のある人なら誰でも参加でき、自分の興味のあるテーマに沿って活動を企画することができる。まさに市民参加型の会である。この良さを活かし更に魅力ある会にするためには、まず、参加した人が何よりも充実感、達成感が味わえる活動を企画すること。更により多くの人が参加できるための工夫とPRも必要かと思う。

環境問題は、すぐに結果が目に見えるというものでもないので諦めず粘り強く、身近なところから一步一步進めるしかない。知る喜び、取り組む楽しさを増やしつつ、一人ひとりの知恵と力を活かし合い集まる場としていきたい。